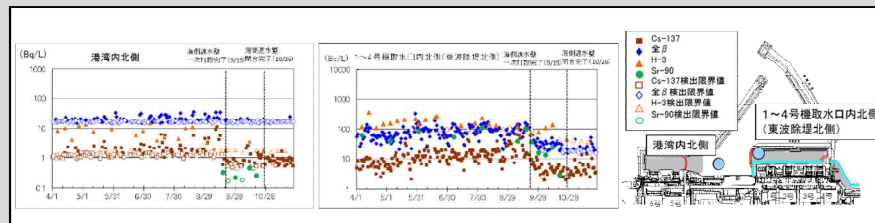


- 前回(10月29日)以降のデータ公開数は約6,000件
 前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約6,000件を公開しました。

● 港湾内海水の放射性物質濃度の傾向

海側遮水壁鋼管矢板打設完了後、継手処理も10月26日に完了しました。この後、1～4号開渠内および港湾内海水の放射性物質濃度は、低下傾向が継続しています。引き続き、港湾内の水質を確認していきます。



● 1号建屋上部で鉄骨撤去作業中。ダスト(粉じん)濃度は安定

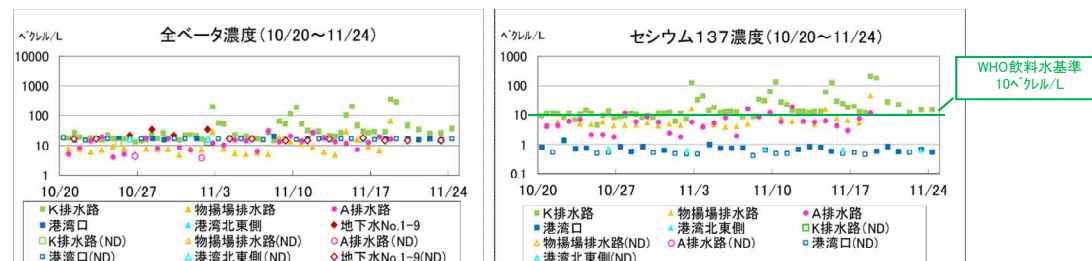
1号機原子炉建屋カバー屋根パネル取り外し作業完了後、飛散抑制対策を着実に実施し、11月9日より散水設備設置に支障となる鉄骨の撤去(ガレキの吸引等)を実施中です。この作業中、敷地境界の8箇所を含め敷地内に20箇所設置してあるダストモニタのダスト(粉じん)濃度に有意な変動は確認されておりません。



A 水(海水、排水路、地下水等)

- ・K排水路では、降雨時に濃度上昇が見られるものの、昨年のような大きな上昇ではない状況。
- ・セシウム137は、K排水路、物揚場排水路を除き概ねWHO(世界保健機関)飲料水基準を下回った。

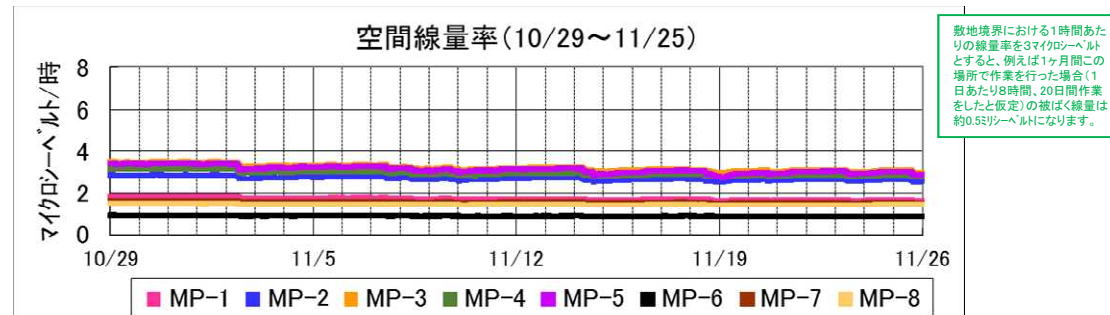
(地下水No.1-9については全ベータ濃度で監視)



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。ストロンチウム、コバルト等が代表的。セシウムも含まれる。
- 物揚場排水路、A排水路の最新データは2015年11月18日。
- (ND)は、不検出との意味で、グラフには検出下限値を記載。

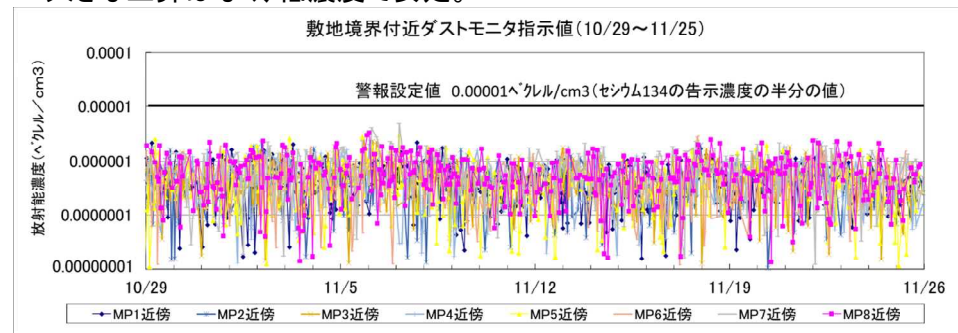
B 空間線量率(測定場所の放射線の強さ)

- ・降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- ・大きな上昇はなく、低濃度で安定。

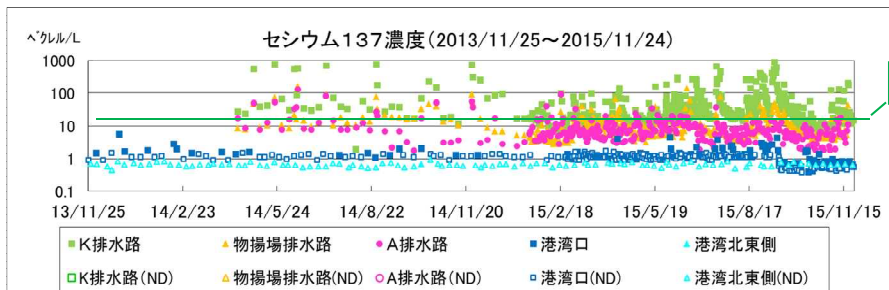
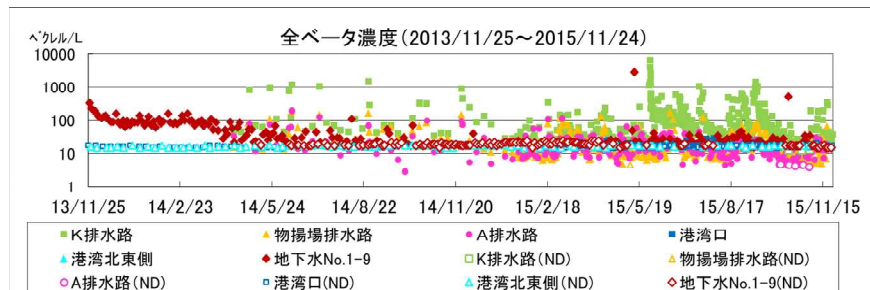


- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

放射線データの概要 過去の状況

A 水(海水、排水路、地下水等)

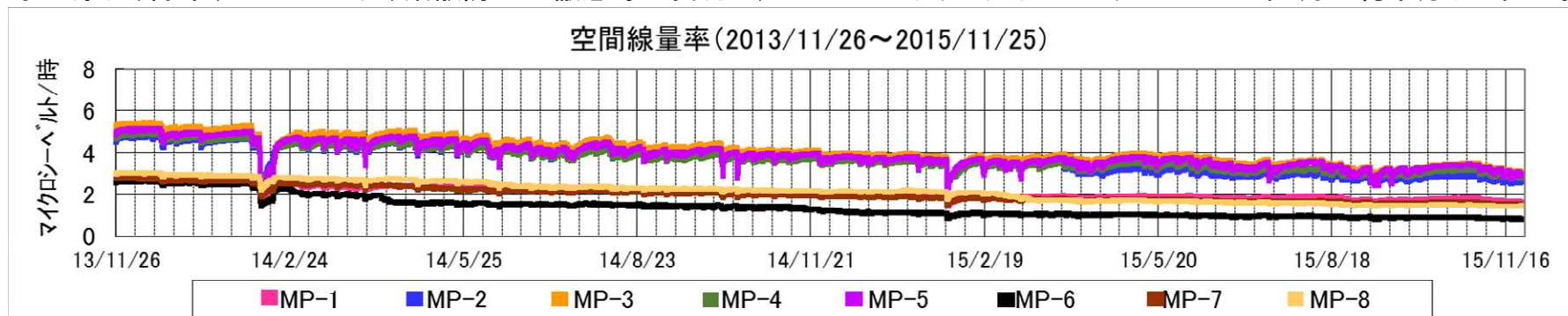
- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路は比較的高い傾向。現在、清掃やC排水路への汲み上げ等の対策を実施中。



- ・K排水路、物揚場排水路、A排水路については2014年4月16日より測定を開始。また、物揚場排水路、A排水路の最新データは2015年10月21日。
- ・港湾口北東側については、2013年11月7日より測定を開始。

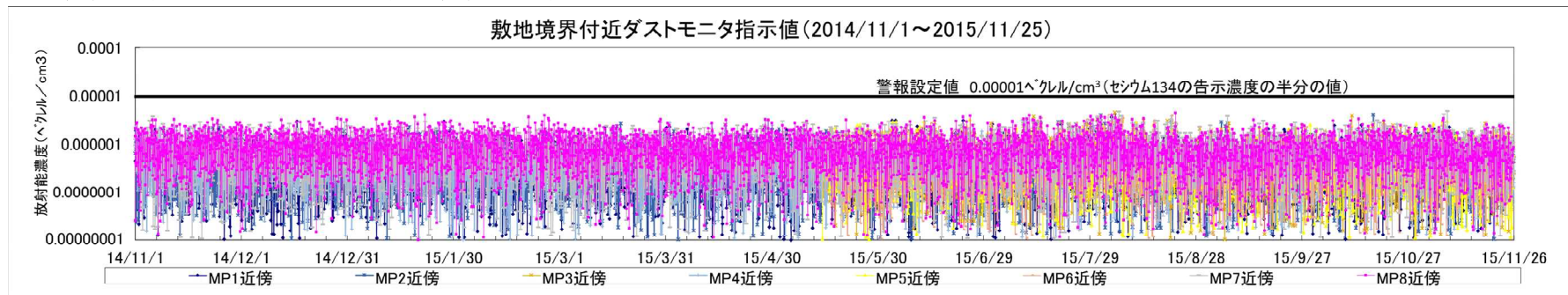
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング、飛散防止の徹底等が奏功し、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の約半分まで低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、大きな上昇は無く、低濃度で安定。



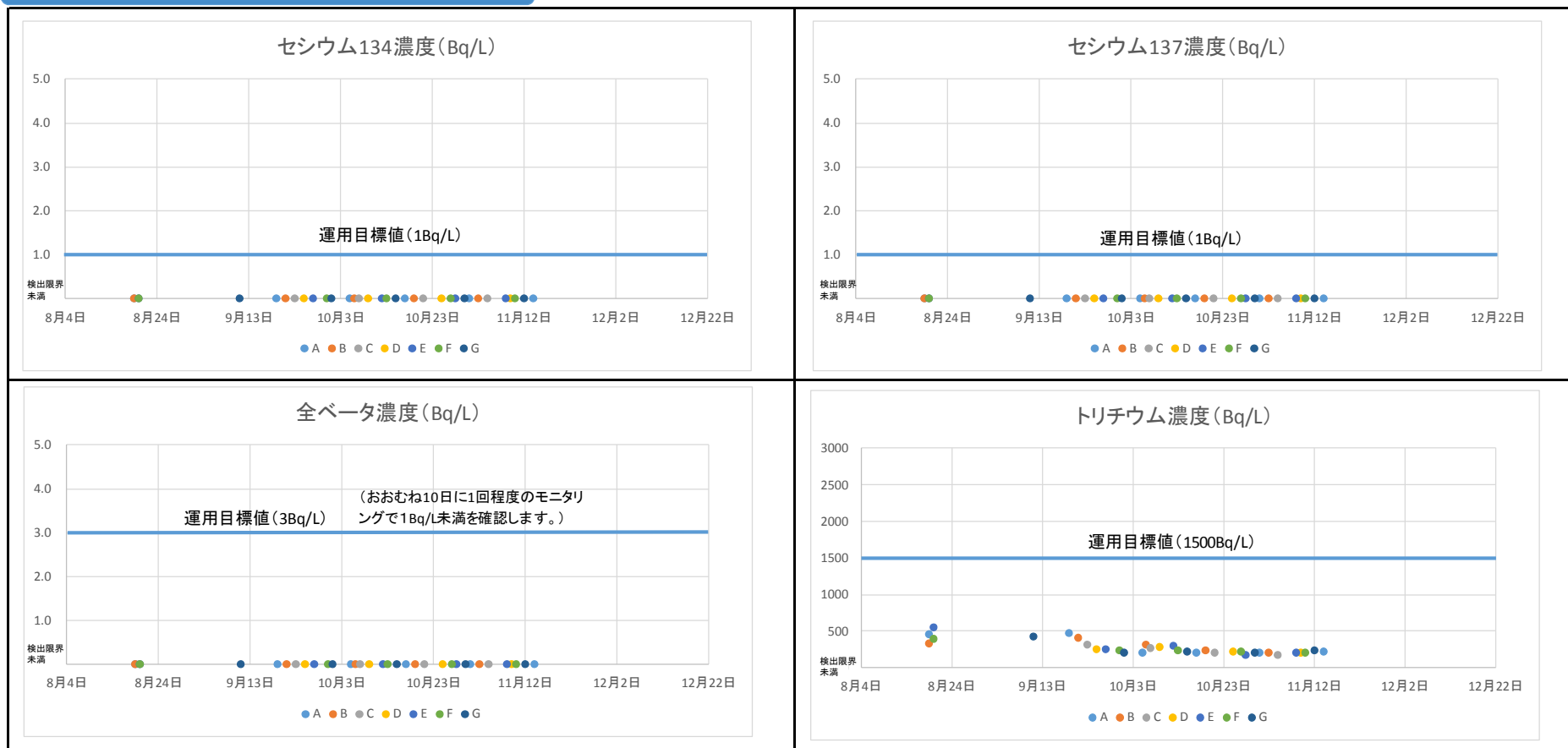
- ・MP1、2、4、7、8近傍は2014年10月1日、MP3、5、6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

- 一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。
- 同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、9月14日から11月21日までに合計33回、23,170m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd>をご覧ください。

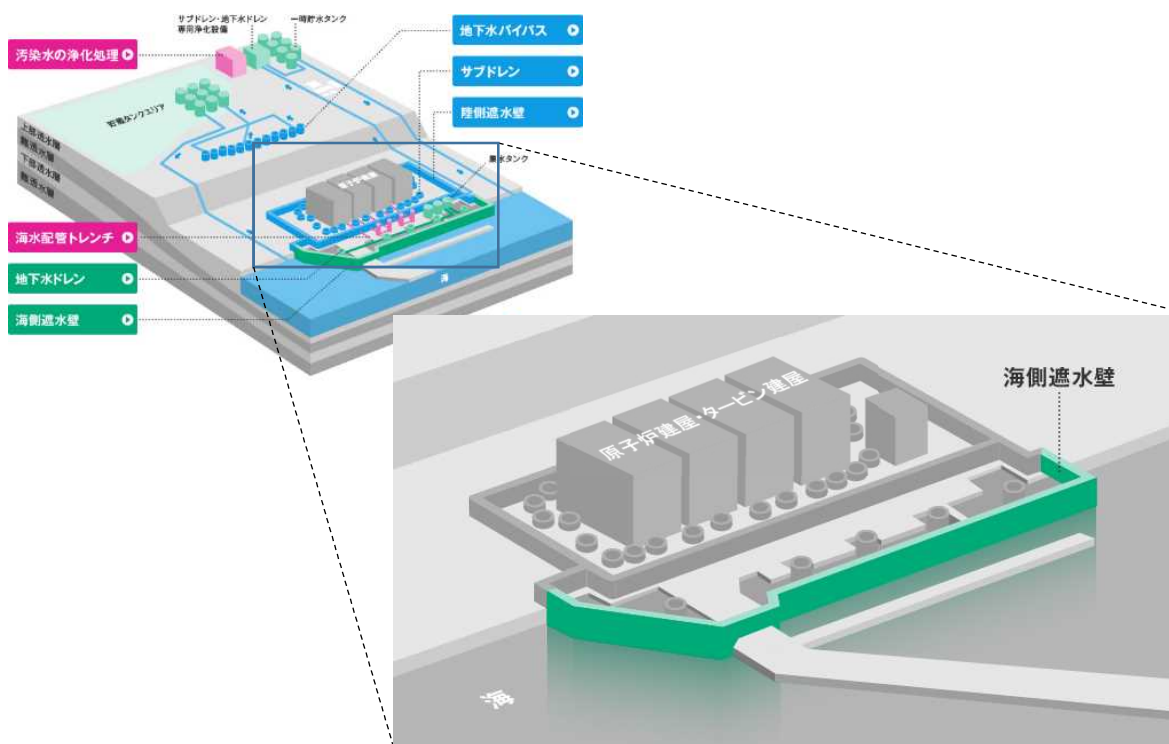
海側遮水壁閉合と放射性物質濃度分析(1)

海側遮水壁の役割・概要

- 海側遮水壁は1～4号機側の敷地から港湾内に流れる地下水をせき止めるための設備であり、2015年10月26日に閉合工事が完了しました。
- これにより汚染水対策は大きく前進し、毎日港湾内に流れていた地下水を抜本的に減らすことに成功しました。また、万が一の汚染水漏えい事故の際にも海洋を汚染するリスクは大幅に減少することができます。

放射性物質濃度の測定・公開

- 海側遮水壁の効果を評価するために、定期的に港湾内外の海水の放射性物質濃度の測定を行っています。
- これら放射性物質濃度の測定データについてはホームページで公開しています。



海側遮水壁

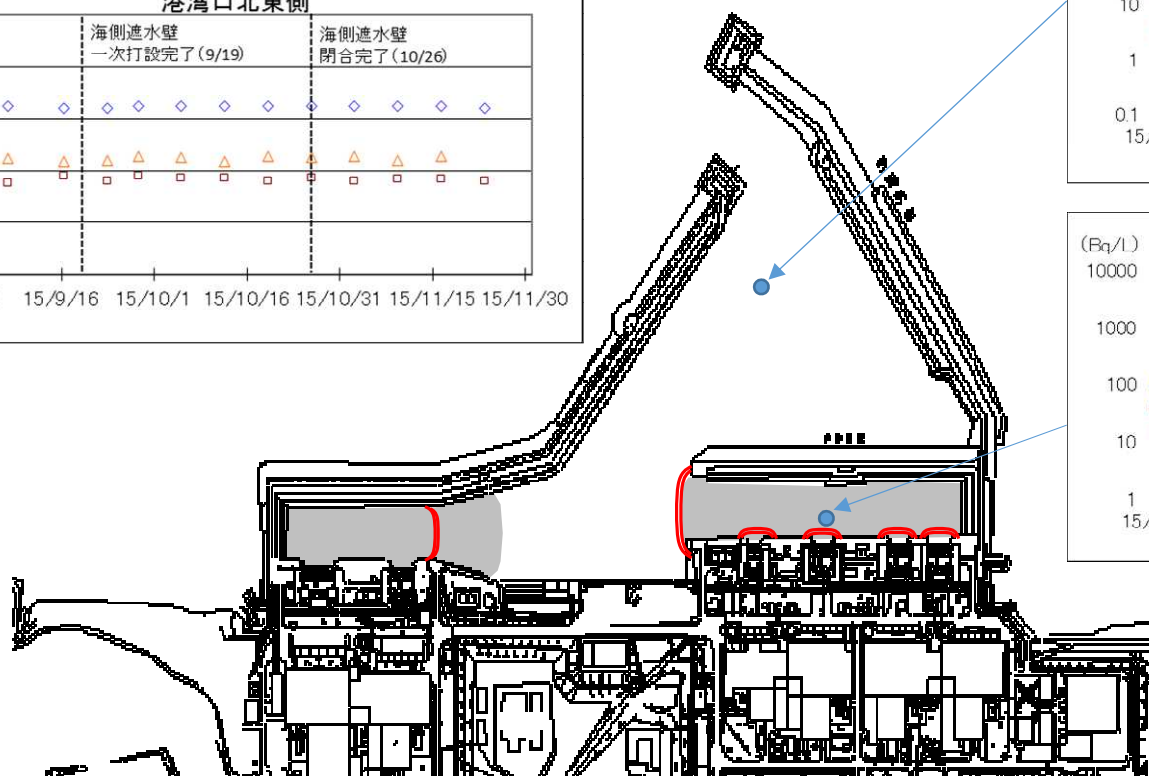
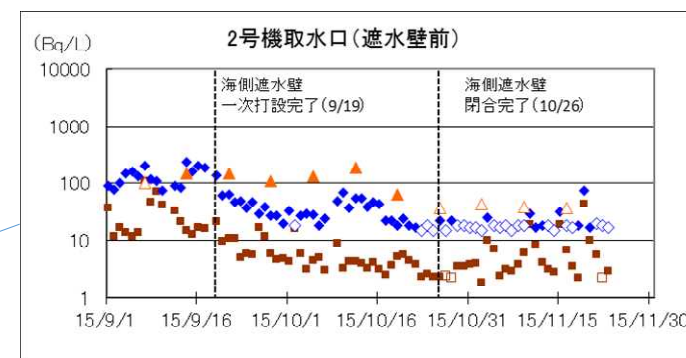
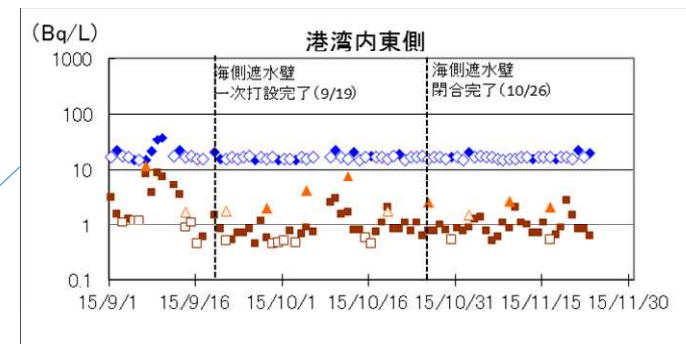
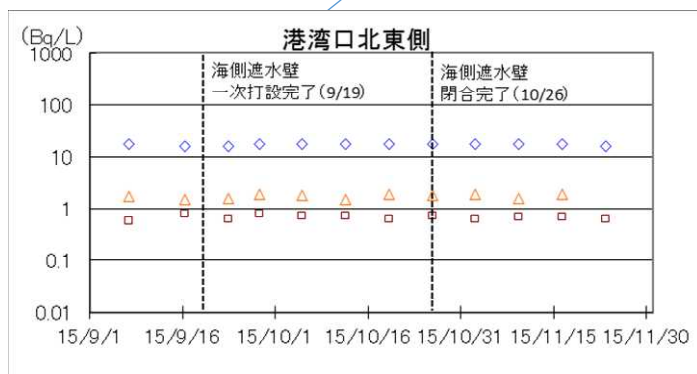


海側遮水壁閉合と放射性物質濃度分析(2)

放射性物質濃度分析による海側遮水壁の効果の評価結果

- 海側遮水壁の閉合に伴い、港湾内の海水中放射性物質濃度に低下傾向がみられます。
- 港湾外は閉合以前からほとんどの箇所検出されていません（検出限界値未満）が、港湾内の海水と同様に低下していると推定しています。
- 今後も、海側遮水壁の効果を確認するためにしっかりとモニタリングを継続してまいります。

放射性物質濃度分析結果の例



- Cs-137
- ◆ 全β
- ▲ H-3
- Cs-137検出限界値
- ◇ 全β検出限界値
- △ H-3検出限界値



海水中放射性物質濃度の測定結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommission/planaction/monitoring/index-j.html>をご覧ください。